



**宮崎大学**  
University of Miyazaki

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

宮崎大学は、教育学部、医学部、工学部、農学部、地域資源創成学部の5つの学部と教育学研究科、看護学研究科、工学研究科、農学研究科、地域資源創成学研究科、医学獣医学総合研究科、農学工学総合研究科の7つの大学院研究科で構成されている国立大学法人です。

本学の概要は次のとおりです。

#### (1) 学部／課程、学科、プログラム、コース

- 教育学部／学校教育課程（小中一貫教育コース・教職実践基礎コース・発達支援教育コース）
- 医学部／医学科、看護学科
- 工学部／工学科（化学生命プログラム・土木環境プログラム・半導体サイエンスプログラム・電気電子システムプログラム・機械知能プログラム・情報通信プログラム）
- 農学部／農学科（動植物資源生命科学コース・森林環境持続性科学コース・海洋生命科学コース・応用生命化学コース）、獣医学科
- 地域資源創成学部／地域資源創成学科（企業マネジメントコース・地域創造コース・地域産業創出コース）

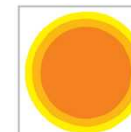
#### (2) 学内共同教育研究施設（学生利用施設）

附属図書館、国際連携センター（留学交流係：GSO）、安全衛生保健センター、障がい学生支援室、イスラム文化研究交流棟（礼拝場所）



# 宮崎大学（宮崎県）

日本の「ひなた」で、一緒に「日本」を学びましょう！



日本の  
ひなた  
宮崎県

### ② 国際交流の実績

31カ国・地域144機関と協定を締結し、5つの海外拠点オフィスを設置して、学生交流や研究・教育に関する協力や交流を積極的に推進しています。

海外拠点オフィス： マランオフィス（インドネシア）、ジョグジャカルタオフィス（インドネシア）、ヤンゴンオフィス（ミャンマー）、ハノイオフィス（ベトナム）、バンラデシュオフィス（バングラデシュ）

これまで、JSTのさくらサイエンスプログラムにより学生・研究者の受入れを行うとともに、2023年度からは、大学の世界展開力強化事業により日本人学生の派遣、外国人留学生の受入を強化し、GXに向けた地域課題を解決できる人材を、国際的に連携しながら育成しております。

### ③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数111人、日研生1人  
2024年：留学生数133人、日研生1人  
2023年：留学生数142人、日研生2人



### ④ 地域の特徴

**自然：** 新鮮な空気、紺碧の海、まぶしい陽光

宮崎は九州南部に位置し、日本で最も暖かい場所の一つです。宮崎市の人口は約40万人と小さいですが、自然が豊かで、スポーツが盛んです。夏にはサーフィン、1～2月には野球やサッカーなどのスポーツキャンプでにぎわいます。

**歴史：** 神話の舞台

雄大な自然に囲まれた宮崎は、日本神話の舞台となっています。

**人・生活：** のんびり、おおらか

おおらかでのんびりとした気質です。また、日本で最も物価が安い地域でもあります。



## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コースの目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

日本語を用いて地域や社会の活動に参加することを通して、体験を伴う、日本事情・日本文化の学習を目的としています。

(b) 主に日本語能力の向上のための研修

日本語能力の向上、および日本の文化や自然への理解を深めることを目的としています。

### ② 研修・コースの特色

【教育方針】

日本語科目で日本語能力を指導するとともに、日本事情科目や日本人学生向け講義への参加、地域での活動・巡検等の体験を通じて、日本や宮崎の文化を広く学び、理解を深めることを目的としています。

また、留学後の研修生の進学・就業など生涯設計も見据えながら、1年間の留学の成果を「目に見える形」とするために、研修修了までに修了論文（研究成果をまとめたレポート・（小）論文形式の文章）を作成することを目指しています。

【特徴】

研修生には指導教員による学習の指導・支援が行われます。指導教員とは別に、日本籍学生によるチューター制度も完備されています。

他の交換留学生とともに日本語・日本事情を学び、日本人学生が学ぶ一般科目も受講することができます。

◆ 全レベル年中開講： 前期、後期でそれぞれ、同じ科目を開講していますので、前期、後期のいずれの学期から留学しても、希望するレベルの科目を受講できるカリキュラムになっています。

◆ 再学習可能： 半期（前期/後期）の学習では修得が不十分と感じた場合、単位取得後でも、同じレベルのクラスを、単位取得対象として再受講できます。

### 【研修内容】

#### 日本語科目

入門から超上級まで7段階に細かく分けられた科目構成による、適切なレベルでの学習を提供します。特に、高度な論文執筆やビジネス日本語の支援、教員の指導が充実しています。

#### 日本事情に関する科目

特色ある以下の科目を提供しています。

・日本事情概論： 全学の教員が様々な分野に関する、今の日本や宮崎の話題について紹介。

・日本語地域体験学習： 実体験、経験を通じて、日本の社会や文化への理解を深めてもらうために、留学生の地域での活動を支援する科目。

### ③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

### ④ 受講希望者の資格、条件等

・日本語能力検定試験： N2合格以上

・日本と母国の架け橋人材として応じたい人物

### ⑤ 達成目標

・留学前より上のレベルの科目の履修。

・修了論文を作成する。

### ⑥ 研修期間（在籍期間）

渡日時期： 2026年9月下旬または10月上旬

帰国時期： 2027年9月下旬

在籍期間： 2026年10月1日～2027年9月30日

（修了式： 9月（2025年は9月10日））

（退寮日： 9月下旬）

### ⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

### ⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬	渡日
10月	オリエンテーション（後期）
11月	大学祭 留学生交流イベント
12月	防災セミナー（後期）  冬期休暇
2-3月	春期休暇
4月	オリエンテーション（前期）
5月	留学生交流イベント
6月	防災セミナー（前期）
7月	えれこっちゃんみやざき市民総踊り
8-9月	夏期休暇
9月	修了証書授与、帰国



### ⑨ コースの修了要件

I）必修科目である超上級日本語を前期（A）・後期（B）とも必ず履修し、修了論文の執筆に取り組み、単位を取得すること。また、選択必修科目の中から2科目以上の単位を取得すること。

II）選択科目、3）見学、地域交流等の参加型科目、4）日本人学生との共修等の機会の中から4科目以上の単位を取得すること。

### ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

#### 1）研修・コース科目の特徴

各国の留学生や日本人学生と広く交流しながら、日本語、日本事情を学ぶことができます。授業や学内・学外の様々な交流活動から興味・関心のあたるテーマを発見し発展させていきます。日本語科目で学術論文の講読に必要なリテラシーを養い、文章作成の技術を学びながら修了論文の執筆を目指します。研修生本人の希望及び指導教員からの指導を十分に考慮しながら、修了論文のテーマに関連する科目と論文執筆に関連する科目を積極的に履修してください。

## 2) 研修・コース開設科目

### I) 必修科目

#### <必修科目>

1年を通して前期・後期の両方履修すること。

- ・超上級日本語A（研究論文の講読と執筆・前期）
- ・超上級日本語B（研究論文の講読と執筆・後期）

#### <選択必修科目>

年2回（前期/後期）開講の科目なので、学習計画に合わせて、前期か後期のいずれかに必ず履修すること。

- ・上級日本語（アカデミック・ライティング、総合日本語等）
- ・技能別日本語（漢字等）

※科目名や内容は一部変更となる場合がありますので、ご了承ください。

### II) 選択科目

以下の科目は、選択科目の一例です。

- ・日本事情概論

※p2【研修内容】を参照

### 3) 見学、地域交流等の参加型科目

- ・日本語地域体験学習

※p2【研修内容】を参照

### 4) 日本人学生との共修等の機会

#### <教養教育科目>

日本人学生向け教養科目。豊富な科目数の中から選択し、担当教員の了解を得て、日本人学生とともに履修することができる。

- ・言語文化概論
- ・言語学入門

など



## ⑪ 指導体制

### 多言語多文化教育研究センター

小柴 裕子（日本語教育部門）

その他関連教員

### 教育学部

国際交流委員長

その他関連教員

## ■宿 舎

【学生寮（一般日本人学生用）】

定員：男子寮 100室、女子寮 100室

#### <国際交流宿舎> ※

単身室： 165室 月額4,700円

夫婦・家族室： 4室

夫婦室：月額9,500円 家族室：14,200円

#### <木花ドミトリ>

単身室： 31室 月額24,000円

（光熱水費・Wi-fi込）

#### <清武ドミトリ>

単身室： 50室 月額25,800円

（光熱水費・Wi-fi込）

#### 【宿舎設備・備品】

各部屋： ベッド、机、椅子、クローゼット

共同： 調理場、洗濯室、風呂、トイレ

宿舎費前納： 必要なし。

※ 滞在期間1年の短期留学となる日研究生は、基本的に国際交流宿舎（単身室）となります。



## ■修了生へのフォローアップ

・日本語・英語による大学からのSNS等による情報発信

・海外同窓会（インドネシア・台湾・ベトナム・ミャンマー）

・修了、帰国後の地域企業等へのインターンシップ、就業による再来日希望者への支援



## ■問合せ先

#### <担当部署>

宮崎大学国際連携機構国際連携課留学交流係  
(GS0: Global Support Office)

住所： 〒889-2192

宮崎県宮崎市学園木花台西1-1

TEL： +81-985-58-7134（直通）

FAX： +81-985-58-7782

Email： ryugaku-s@of.miyazaki-u.ac.jp

#### <ウェブサイト>

宮崎大学国際連携センター：

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/kokusai/>

宮崎大学：

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/>